

## 安房支部「池田一男」さんのブルーベリー園に「有機農産物」の認証

2022.7.29 房日新聞(安房地域新聞)



実ったブルーベリーを前に、認証書を手にする安房支部池田さん

南房総市の平群地区で、特徴ある栽培に取り組むブルーベリー農園が、公的認証機関から「有機農産物」の認証を受けた。定年帰郷後の中長期的な取り組みで、無農薬栽培を続けた。伊予ヶ岳、余蔵山(大台山)を見上げる農地は、今がブルーベリーの収穫期だ。

同市平久里下の「池田ブルーベリー園」＝池田一男さん(73)経営＝で、自宅裏手の中山間地約6アールで、中長期的視野で無農薬栽培に取り組む。

池田さんは、元陸上自衛隊員で千葉県県隊友会安房支部会員。定年後、地元の道の駅で仕事の世話になった。春のタケノコ狩り、初夏のビワの収穫体験、秋のミカン狩りといった観光農園の端境期となる8月に、地域で何か体験向け果樹がないかと模索する中、池田さんが栽培を決めた。

県の農業部門の技術指導を受け、「特徴ある栽培」としてブルーベリーの無農薬に取り組んだ。

粘土質土壌のため、畑にたこつぼ状の穴を掘って、酸性のピートモスを盛り上げた。ほ場改良作業は、陸自での経験が役に立った。

3年間は収穫せず、木を大きく育てることに専念。防風網で周囲を囲むと、飛躍的に成長が早まったという。

果実は地元直売所などで販売している他、商品開発補助事業を活用し、ピューレ、茶葉、パウダーなどの商品化も実現させた。

日本農林規格登録認証機関「アフラス認証センター」(東京都港区)の有機農産物の認証を受け、商品販売の他、ブルーベリー狩りも実行している。

有機認証は、時代の追い風。コロナ禍で先行き不透明な時代に、確たる方向性が示している。池田さんは、「認証を受けられたのも、周囲の皆さんのおかげ。インターネット販売も人気」と話す。

生のブルーベリーは今が旬。ブルーベリー狩りの問い合わせは、道の駅富楽里とみやま(0470—57—2601)へ。